

## 要約

近年、対人相互作用の負の側面である対人ストレスの頻度とその影響要因が文化によって異なる可能性が指摘されている。対人ストレス（ストレスとなり得る対人的相互作用）は、大きく対人葛藤、対人過失、対人摩耗の3種類に分類されるが、たとえば北米に比べ日本においては他者との調和的關係を維持することを重要視する相互協調的傾向が強いため、たとえ自身の本心を抑制してでも相手に合わせるような相互作用、すなわち対人摩耗が経験されやすいことが報告されている。本研究はこの日米比較の知見を地域差に拡張し、居住地の特性と文化的自己観によって対人ストレスの頻度およびその説明要因が異なるかを、北海道・本州2地域（首都圏と地方都市）の3地域の比較調査によって検討した。